

文化観光スポーツ部 令和5年度当初予算(案)

令和5年度当初予算額	令和4年度当初予算額	増減額	増減率
25,111百万円	52,533百万円	△27,422百万円	△52.2%

＜令和5年度当初予算の考え方＞

- ▶入域観光客数の増加や国際路線の就航再開など回復の兆しは現れ始めているものの、引き続き、国内・海外の旅行需要獲得に向けた誘客・路線誘致活動や、喫緊の課題である観光産業の人手不足解消、サステナブル・レスポンシブルツーリズムなどの取組を要するため、「県民、観光事業者、観光客全てが幸せな三方よしの社会の形成と諸課題の解消を目指す観光地」の実現に向けた経費を計上。
- ▶沖縄文化の保存・継承と更なる発展のため、文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり、しまくとぅばの保存・普及・継承の促進、「空手発祥の地・沖縄」の発信と沖縄空手の保存・継承・発展に取り組むための経費を計上。
- ▶県民等が主体的に参画する生涯スポーツの取組やスポーツコンベンションの誘致・開催、スポーツ関連産業振興の核となる人材の育成等、スポーツアイランド沖縄の形成実現のための経費の計上。
- ▶沖縄を結び目とする「ウチナーネットワーク」の強化を図るため、交流基盤としてのコンシェルジュ機能の充実・強化、将来のウチナーネットワークを担う次世代育成や、観光・経済・文化等の様々な分野の多元的な交流の推進に取り組むための経費を計上。

(括弧内は令和4年度当初予算額)

観光振興・MICE 20,056百万円(47,134百万円) 世界から選ばれる持続可能な観光地の形成と沖縄観光の变革

【主な取組】

1. 国内・海外の旅行需要を取り込む誘客活動 17,324百万円
2. 「安全・安心で快適な島沖縄」の実現に向けた受入体制の充実・強化 596百万円
3. 大型MICE施設整備等を核とした戦略的なMICEの振興 297百万円

文化・空手振興 3,238百万円(3,710百万円) 沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

【主な取組】

1. しまくとぅばの保存・普及・継承の促進 96百万円
2. 沖縄文化の継承・発展・普及 165百万円
3. 文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり 1,562百万円
4. 「空手発祥の地・沖縄」の発信と沖縄空手の保存・継承・発展 188百万円

スポーツ振興 1,292百万円(951百万円) 世界にはばたき躍動するスポーツアイランド沖縄の形成

【主な取組】

1. スポーツ関連産業の振興と地域の活性化
(スポーツコンベンションの推進等) 373百万円
2. FIBAバスケットボールワールドカップ2023開催支援 224百万円
3. 生涯スポーツの推進・競技スポーツの推進 270百万円

交流推進 525百万円(738百万円) 沖縄を結び目とする「ウチナーネットワーク」の強化

【主な取組】

1. 交流基盤としてのコンシェルジュ機能の拡充・強化及びウチナーネットワークの継承・発展を担う次世代の育成 113百万円
2. 国内外との多元的な交流の推進 246百万円

世界から選ばれる持続可能な観光地の形成と沖縄観光の変革（20,056百万円）

国内・海外の旅行需要を取り込む誘客活動



現状認識と目指す姿

回復の兆しが見え始めた沖縄への旅行需要を引き続き確実に取り込むため、安定的かつ継続的な国内観光客の確保に加え、水際対策の緩和を踏まえ、海外の各市場において航空会社や旅行会社と連携した取組を強化し、インバウンド誘客と国際航空路線の拡充を図り、コロナ前の観光水準への早期回復を目指す。

課題

世界から選ばれる持続可能な観光地の形成に向け、観光客一人当たりの消費額の向上や滞在日数の延伸等に取り組み、沖縄観光の高付加価値化を図る必要がある。

国内市場においては、リピーター層（ファン層）の更なる獲得に加え、未経験者層の新規需要を獲得するため、戦略的かつ効果的なプロモーションを行う必要がある。

海外市場においては、人口減少に伴い、消費単価が高く、滞在日数が長い外国人観光客の需要を積極的に取り込む必要がある。

取組の方向性

- ・独自の自然や季節毎の魅力などを親和性の高いターゲットに発信するなど、ターゲットに応じたきめ細やかかつ積極的な誘客活動を展開する。
- ・コロナの状況を踏まえ国内需要回復に重点を置いていたが、国際線の再開状況を踏まえ、海外需要の回復に向け、外国人観光客・国際航空路線の誘致に積極的に取り組む。



関連事業

()はR4度予算額

- ① **沖縄観光グローバル事業** 【拡】643百万円(334百万円)
国際観光地沖縄の需要創出を図るため、航空路線の誘致・拡充と連動したターゲット市場における戦略的なプロモーションの展開、Be.Okinawaブランドのイメージ浸透、富裕層に特化したプロモーションを実施する。
- ② **国内需要安定化事業** 322百万円(352百万円)
国内観光客の安定的かつ継続的な確保を図るため、各種プロモーションの展開、沖縄観光ブランド「Be.Okinawa」の周知、及び国内富裕層向けプロモーションを行う。
- ③ **離島観光活性化促進事業** 117百万円(124百万円)
離島への観光客誘致を促進するため、離島へのチャーター便支援、離島観光プロモーション、主要離島地域の観光客が主体となった地域プロモーション等を実施する。
- ④ **教育旅行推進強化事業** 102百万円(78百万円)
国内外の教育旅行需要を長期的かつ安定的に確保するため、各種プロモーションの実施や旅行商品造成支援等による誘致活動や、県内の教育旅行受入体制整備を実施する。
- ⑤ **GoToおきなわキャンペーン事業** 16,140百万円(37,657百万円)
観光関連産業を中心とする地域経済の回復を図るため、全国を対象として、旅行・宿泊サービスの割引を行うとともに、地域クーポンを発行するキャンペーンを実施することにより、観光需要を喚起する。

「安全・安心で快適な島沖縄」の実現に向けた受入体制の強化・充実

現状認識と目指す姿

アフターコロナにおいては、防疫体制と受入体制の構築を図ることで、観光客に対する「安全・安心」な旅行環境を提供するとともに、DXの推進や多様なニーズに対応するシームレスで利便性の高い交通体系の整備、豊かな自然環境や独自の歴史、文化などのソフトパワーを活用した質の高い観光コンテンツの造成などに取り組むことで、世界から選ばれる持続可能な観光地を目指す。

このため、これら受入体制及び受入環境に関する取組の強化や当該取組に関する情報発信を行いながら、「安全・安心で快適な島沖縄」、また、「県民」「観光事業者」「観光客」が等しく恩恵を受ける「三方良しの社会」の実現を目指す。

課題

- ・ 人手不足による観光需要の取りこぼし
- ・ レンタカー中心の移動手段から多様な交通手段へのシフト促進
- ・ 独自性の高い(本物の体験)観光コンテンツの造成の必要性
- ・ 住民、地域、自然、文化への尊重意識の醸成(レスポンスブル)と持続可能(サステナブル)な観光地づくりの推進

取組の方向性

- ・ 観光事業者の人材確保に向けた取組の支援等による観光人材確保
- ・ 公共交通の利用促進
- ・ 多様なニーズに即したソフトパワーを活用した質の高い観光コンテンツの造成
- ・ レスポンスブル、サステナブルな観光地づくりの推進
- ・ コロナで喪失したインバウンド受入体制の再構築

関連事業

()はR4度予算額

- ① 観光人材確保支援事業【新】【基金】 249百万円 (皆増)
- ② 観光人材育成・確保促進事業 63百万円 (70百万円)
- ③ 観光2次交通結節点機能強化事業【新】【基金】
53百万円 (皆増)
- ④ 観光2次交通利用促進事業【新】【基金】 30百万円 (皆増)
- ⑤ 沖縄観光コンテンツ開発支援事業 100百万円 (121百万円)
- ⑥ サステナブルツーリズム推進事業【新】【基金】
12百万円 (皆増)
- ⑦ マリンレジャー事故防止調査対策事業【新】【基金】
30百万円 (皆増)
- ⑧ Be.Okinawa多言語コンタクトセンター運営事業
41百万円 (32百万円)
- ⑨ 旅行者専用発熱等相談支援事業 18百万円 (353百万円)



「安全・安心で快適な島沖縄」の実現に向けた受入体制の強化・充実

観光人材確保

()はR4度予算額

① 観光人材確保支援事業【新】【基金】

249百万円 (皆増)

観光事業者の生産性向上に資する取組を支援するとともに、観光業界のイメージアップに繋がる情報発信、観光事業者と求職者のマッチング機会の創出、OJTの実施等の取組により、観光業界における人手不足の改善や人材の確保に繋げる。

② 観光人材育成・確保促進事業 63百万円 (70百万円)

国内外の観光客が安心して満足する質の高いサービスを提供できる観光人材を育成・確保するため、階層別研修やオンラインセミナー配信、講師データベースの構築による企業と講師のマッチング支援を行う。

観光2次交通整備強化

()はR4度予算額

③ 観光2次交通結節点機能強化事業【新】【基金】

53百万円 (皆増)

主要な観光地や観光エリアを観光2次交通結節点と位置づけ、主要ホテルやレンタカー事業所を周遊する小型バス等を運行し、レンタカー貸渡場所の分散化を図る取組を実施する。

④ 観光2次交通利用促進事業【新】【基金】 30百万円 (皆増)

観光客の2次交通の利用促進のため、繁忙期において観光2次交通を利用促進を図るため、市町村や観光事業者等が行う観光2次交通の確保に要する経費に対し、補助する。

持続可能な観光地の形成

()はR4度予算額

⑥ サステナブルツーリズム推進事業【新】【基金】

12百万円 (皆増)

沖縄独自の歴史や文化、地域資源を利活用した観光を推進するとともに、自然環境の保全、地域の文化・生活環境を尊重し、旅行者と地域住民が沖縄観光ブランドの価値を共有する持続可能で質の高い観光に取り組む。

⑦ マリンレジャー事故防止調査対策事業【新】【基金】

30百万円 (皆増)

ビーチや海岸の概要及び事故発生状況を含む海の安全マップシステムを構築するとともにポータルサイトで公開し、観光客に対して海の危険性及び正しい知識を周知し、事業者に対して最新の事故情報等を提供することで水難事故防止を図る。

⑧ Be.Okinawa多言語コンタクトセンター運営事業

41百万円 (32百万円)

外国人観光客への観光案内、通訳サービス、台風等災害時の対応サポート等を行う多言語コンタクトセンターを運営する。

質の高い観光コンテンツ造成

()はR4度予算額

⑤ 沖縄観光コンテンツ開発支援事業

100百万円 (121百万円)

沖縄の豊かな自然、伝統文化、歴史等のソフトパワーを生かし多彩で質の高い観光コンテンツ開発に取り組む民間事業者等に対し、コンテンツ開発に要する経費の一部を補助する。

水際対策

()はR4度予算額

⑨ 旅行者専用発熱等相談支援事業 18百万円 (353百万円)

旅行者専用相談センター沖縄(TACO)による旅行者のための健康相談窓口を設置する。

大型MICE施設整備等を核とした戦略的なMICEの振興

現状認識と目指す姿

本県は、産学官の連携等の取組により、沖縄の地域特性を生かした国際会議や魅力ある観光資源を活用したインセンティブ旅行など、リゾート型のMICE開催地として一定の評価を得ている。

MICE振興による「ビジネスツーリズム」を沖縄観光の一つの基軸と位置付け、国際的なMICE開催地としてのブランド構築及び関連産業の成長発展に向けて、『**マリンタウンMICEエリアの形成を核とした戦略的なMICEの振興**』を目指す。

課題

- ・ 大型MICE施設整備の着実な推進
- ・ 回復基調にあるMICE需要の本県への誘引
- ・ さらなるビジネスツーリズムの推進に向けた施策展開を図るための、全県的なMICE受入体制の充実・強化

取組の方向性

- ・ マリンタウンMICEエリアにおけるPFI法に基づく大型MICE施設の整備と、同施設を中心とした魅力あるまちづくりに向けた取組を推進
- ・ ポストコロナに向けて、回復基調にあるMICE需要を取り込むための積極的な誘致活動の展開
- ・ 産学官が連携したMICE受入体制の強化
- ・ MICE参加者の満足度の向上に向けた、県内開催のMICEを歓迎する取組の推進

関連する主な事業

()はR4度予算額

① マリンタウン大型MICE施設整備・エリア形成事業 **【新】** 43百万円(皆増)

大型MICE施設とマリンタウンMICEエリア全体の周辺環境の整備に向けた取組(実施方針、公募要領、要求水準等のPFI法に基づく手続)の推進

② 戦略的MICE誘致促進事業 211百万円(207百万円)

回復傾向にある国内外のMICE需要を沖縄へ引き込むための積極的な誘致・プロモーション活動の展開

③ MICE受入体制強化等事業 **【新】**【基金】43百万円(皆増)

全県的なMICE受入体制の強化(MICE専門人材の育成、アドバイザー派遣)、沖縄らしさを活用してMICE参加者の満足度を向上させる開催歓迎支援の充実



沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展の取組（3,238百万円）

沖縄文化の継承・発展・普及/文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり

現状認識と目指す姿

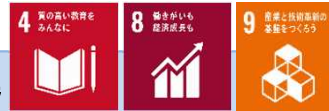
文化芸術は、人々が心豊かに生き、活力ある社会を築いていく基盤として本県の発展に欠かせないものである。

そのため、本県の地理的特性や歴史的過程を経て醸成された独自の伝統文化の継承とともに、多様性と普遍性が共存する新たな文化芸術が創造され、多様な担い手が活躍できる様々な機会及び場が創出されることで、県民の喜びや誇りとし、世界を魅了する沖縄文化の更なる発展を目指す。

課題

文化芸術の担い手が沖縄の多様な文化を継承し、また、県民等が文化・芸術に触れる機会を増やすこと等、沖縄文化の継承・創造と更なる発展を支える環境を拡充することが課題である。

取組の方向性



1.しまくとぅばの保存・普及・継承の促進

言葉が生活又は文化芸術の基盤を成し、文化そのものであることを鑑み、各地域のしまくとぅばの保存及び普及、継承に取り組む。(SDGs目標:4, 8)

2. 沖縄文化の継承・発展・普及

伝統芸能等を県民向けに披露する場の創出及び広く国内外に向けた情報発信、独特な食文化の保存・普及・継承及び魅力の発信に取り組む。(SDGs目標:4, 8, 9)

3. 文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり

沖縄の伝統文化を担う継承者の育成や文化芸術団体支援し、文化資源を活用した魅力的な地域づくりに取り組む。

(SDGs目標:4, 8, 9)

関連事業

()はR4度予算額

- ① しまくとぅば普及継承事業 74百万円 **【拡】**(70百万円)
- ② しまくとぅばアーカイブ事業 22百万円 (23百万円)
- ③ 沖縄県文化振興事業等推進費 55百万円 (53百万円)
- ④ 沖縄食文化保存普及継承事業 21百万円 (21百万円)
- ⑤ しまじまの芸能を活用した文化観光コンテンツ創出事業 **【新】【基金】** 47百万円 (皆増)
- ⑥ 琉球王国文化遺産集積・再興事業 18百万円 (16百万円)
- ⑦ 琉球歴史文化の日周知啓発推進事業 18百万円 (10百万円)
- ⑧ 文化資源を活用した沖縄観光の魅力アップ支援事業 26百万円 (30百万円)
- ⑨ 沖縄文化芸術の創造発信支援事業 81百万円 (81百万円)
- ⑩ 琉球歴史文化コンテンツ創出支援事業 43百万円 (40百万円)



沖縄文化の継承・発展・普及/文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり

関連事業詳細

① しまくとぅば普及継承事業 74百万円 (R4度:70百万円)

「しまくとぅば」を次世代へ継承するため、しまくとぅば普及推進計画(第2期計画)に基づき県民運動を展開し、各地域へ普及促進を行うための経費

- ・各地域のしまくとぅばの普及促進(しまくとぅば普及センター運営、普及推進団体への補助等)
- ・気運醸成の取組み(しまくとぅば県民大会・関連イベント、普及功労者表彰等)
- ・各委員会等による効果検証等(しまくとぅば普及推進委員会、「しまくとぅば」教育に関する検討委員会等)

② しまくとぅばアーカイブ事業 22百万円 (R4度:23百万円)

沖縄文化の基層である「しまくとぅば」を次世代へ継承するため、しまくとぅばのアーカイブ化の取組みを行う。

- ・各地域ごとの文法的事項が織り込まれた文法調査票の収集
- ・文法調査票と連動した教材の作成
- ・教科書に掲載されている歌、文学的文章の収録
- ・自然談話の収録
- ・各題材の公開(前年度実施分)

③ 沖縄県文化振興事業等推進費 55百万円 (R4度:53百万円)

(公財)沖縄県文化振興会が実施する文化振興事業等への支援に要する経費

- ・おきなわ文学賞事業
- ・沖縄県伝統芸能公演支援事業(かりゆし芸能公演)
- ・文化活動支援助成事業
- ・沖縄県芸術文化祭開催事業

④ 沖縄食文化保存普及継承事業 21百万円 (R4度:21百万円)

沖縄の伝統的な食文化普及推進計画に基づく担い手の育成・活用及び食文化の普及啓発等に要する経費

- ・琉球料理传承人の育成
- ・琉球料理传承人の活用促進
- ・琉球料理が味わえる店(仮)店舗認証制の開始
- ・イベント、普及啓発ツール、HP等を通じての普及啓発等

⑤ しまじまの芸能を活用した文化観光コンテンツ創出事業

【新】【基金】 47百万円(皆増)

文化資源を活用した観光誘客や文化観光の推進、商業・観光分野へのニーズ開拓のための地域相談員による支援を行う経費

- ・文化資源を活用した観光誘客を図り、文化観光の推進に取り組むため、「沖縄県伝統芸能祭」を実施する。
- ・伝統芸能祭のプロモーションを行うとともに、伝統芸能等にかかる映像製作及び配信を行う。
- ・商業・観光分野へのニーズ開拓のための地域相談員による支援を行う

⑥ 琉球王国文化遺産集積・再興事業 18百万円 (R4度:16百万円)

戦災等により滅失・損傷した琉球王国時代の有形・無形文化財等を模造復元し、その成果を発信するための実施設計作成に要する経費

- ・琉球王国時代の文化遺産及び手わざ発信の調査を行う。
- ・模造復元製作及び発信業務の実施設計。
- ・模造復元する文化財を選定するための監修者会議を開催する。
- ・発信業務の計画立案のための専門家会議を開催する。

⑦ 琉球歴史文化の日周知啓発推進事業 18百万円 (R4度:10百万円)

琉球歴史文化の日について広報周知活動を行い認知度を向上させる取組等に要する経費

- ・沖縄の歴史文化に関するコンテストやワークショップ、講演会等の実施

⑧ 文化資源を活用した沖縄観光の魅力アップ支援事業 26百万円 (R4度:30百万円)

沖縄の文化資源を活用した新たな観光メニューを創出し、観光誘客を図るための経費

- ・沖縄芸能マグネットコンテンツ公演及び県外プロモーション公演
- ・旅行商品造成プログラムモデルの構築及び文化体験プログラムの実施

⑨ 沖縄文化芸術の創造発信支援事業 81百万円 (R4度:81百万円)

県内文化芸術活動の持続的発展に資する取組を行う文化関係団体等への支援に要する経費

- ・県内文化関係団体等による文化資源を活用した文化芸術活動の取組を公募、審査、採択し、ハンズオン支援を行う。
- ・文化芸術人材バンクの運用及び文化芸術活動の担い手育成に関するプログラムの実施。

⑩ 琉球歴史文化コンテンツ創出支援事業 43百万円 (R4度:40百万円)

琉球の歴史文化資源を活用した新たなコンテンツを制作する事業実施者への支援等に要する経費

- ・琉球の歴史文化に由来する文化資源をテーマとする新たなコンテンツを制作する県内文化芸術団体等事業実施者の取組を公募・選定。
- ・文化資源を活用した産業化に関する講演等実施。

「空手発祥の地・沖縄」の発信と沖縄空手の保存・継承・発展

現状認識と目指す姿

- ✓ 沖縄が発祥の地である空手は、世界中に1億3千万人の空手愛好家がいるといわれるほど普及しており、沖縄が世界に誇る伝統文化である。
- ✓ 次世代を担う指導者及び後継者の育成、世界レベルでの大会や国際的なイベントを実施することにより、沖縄空手の振興だけに留まらず、国内外からの誘客を促進し観光産業との連携による地域の活性化及び国際交流の推進を目指す。

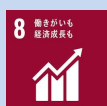
課題

- ✓ 「空手発祥の地・沖縄」の認知度の低さ
- ✓ 門下生の減少、後継者の不足
- ✓ 幅広い産業と連携した空手を通じた産業の創出

取組の方向性

- ✓ 「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上に向け、沖縄空手世界大会の開催をはじめ、国内外への指導者派遣や普及啓発に係る取組を実施
- ✓ 「沖縄空手振興ビジョン」等に基づき、後継者の育成、道場基盤支援に係る取組を実施
- ✓ 空手による観光業等への波及効果を目指し、「空手ツーリズム」の推進に係る取組を実施

関連するSDGs



関連事業



ユネスコ登録推進

沖繩空手世界大会

「空手の日」記念演武祭

()はR4度予算額

- ①沖縄県空手振興事業115百万円(122百万円)
・沖縄空手振興ビジョンやロードマップに基づき、空手指導者育成のための講座や「空手の日」イベントの開催等を通じた沖縄空手の保存・継承・発展に取り組む
- ②沖縄空手世界大会開催事業39百万円(54百万円)
・第2回沖縄空手少年少女世界大会の開催準備に取り組む
- ③沖縄空手ユネスコ登録推進事業12百万円(8百万円)
・沖縄空手のユネスコ登録に必要な調査・研究及び県民等の気運醸成に向けた取り組みを推進する
- 【新】④空手ツーリズム受入体制構築事業【基金】.....22百万円(皆増)
・空手を文化観光資源として活用した空手ツーリズムを推進し、国内外の空手愛好家や観光客の受入体制構築に取り組む

世界にはばたき躍動するスポーツアイランド沖縄の形成(1, 292百万円)

現状認識と目指す姿

スポーツが持つ言語を超えたコミュニケーションは、社会課題の解決や青少年の健全育成、地域・経済の活性化につながるもので、また、日々のスポーツを通じた健康増進は心身を健康に保ち明るく豊かな社会づくりに寄与してる。

本県の地域特性やスポーツの持つソフトパワーを最大限活用した持続可能な沖縄の発展に向けて、県民や県外・海外から訪れた人々がともに享受できる、「世界にはばたき躍動する『スポーツアイランド沖縄』の形成」を目指す。

課題

- コロナ禍により大幅に落ち込んだスポーツコンベンションの誘致・開催の回復
- スポーツ関連産業の創出・付加価値の向上とこれに対応する人材の育成
- 県民等の主体的なスポーツへの参画

取組の方向性

- 本県の魅力的なスポーツ環境のプロモーションの積極的展開と受入市町村やスポーツコミッション沖縄等と連携しスポーツコンベンションの誘致・開催に取り組む
- スポーツと健康づくり、ICT等の既存産業との連携強化によるスポーツ関連事業の創出支援へ取り組むとともに、これを支えるマネジメント人材の育成に取り組む
- 県民のスポーツをする機会を創出し、生涯スポーツ社会の実現に取り組む



関連施策

()はR4度予算額

- 1 スポーツツーリズム戦略推進事業 264百万円
(262百万円)
スポーツツーリズムの普及・定着(魅力あるイベントへの支援・国内外のチームの合宿誘致)
- 2 スポーツアイランド沖縄形成に向けた付加価値構築支援事業 68百万円
(66百万円)
各種産業の連携によるスポーツの付加価値構築に向けた支援
- 3 サッカースタジアム整備等推進事業【新】 21百万円
Jリーグ規格スタジアムの整備に向け、整備財源や整備手法等について検討を進める
- 4 FIBAバスケットボールワールドカップ2023推進事業【新】 224百万円
FIBAバスケットボールワールドカップ2023に向けた支援体制を構築し、子ども達の大会への招待やトップアスリートとの交流、国内外からの誘客プロモーションなどに取り組む
- 5 競技力維持・向上、生涯スポーツ振興等 270百万円
(270百万円)
トップアスリートの育成等競技力の維持・向上の取組等に対する支援やスポレク祭の開催など生涯スポーツの振興に取り組む



沖縄を結び目とする「ウチナーネットワーク」の強化(525百万円)

現状認識と目指す姿

「ウチナーネットワーク コンシェルジュ」が担う5つの機能(①人的ネットワークの継承、②情報発信と集約、③交流促進、④相談窓口、⑤歴史継承)を拡充するとともに、交流の懸け橋となる県内の若者と国内外の若者間の交流促進や国際的な視野を持った人材育成に取組み、アジアをはじめ世界を結ぶ交流ネットワークの基盤形成を目指す。

課題

ウチナーネットワークと沖縄とのつながりが希薄になりつつある。

- ①情報発信の不足
- ②コロナ禍での人的交流の鈍化
- ③継続的な交流活動
- ④海外県人会の活性化



取組の方向性

- ・国内外に広がるウチナーネットワークを次世代へ安定的に継承するためのプラットフォーム(コンシェルジュ)を拡充する。
- ・次世代のウチナーネットワークを担う人材を育成する。
- ・様々な分野の多元的な交流を推進する。



4 質の高い教育をみんなに



17 パートナシップで目標を達成しよう



関連事業

()はR4年度予算額

1. 交流基盤としてのコンシェルジュ機能の拡充・強化及びウチナーネットワークの継承・発展を担う次世代の育成
 - ①次世代ウチナーネットワーク育成事業【拡】71百万円 (61百万円)
 - ・海外への情報発信や歴史継承等、次世代へウチナーネットワークを安定的に継承するため、コンシェルジュ機能を強化する。
 - ・子弟留学生受け入れや、国内外と県内の若者同士の交流を促進し、ウチナーネットワークを担う次世代の人材を育成する。
 - ②世界のウチナーネットワーク強化推進事業 42百万円 (291百万円)
 - ・「世界のウチナンチュの日(10月30日)」の定着を図るため、海外県人会への芸能指導や、県民が移民の歴史等を学ぶ出前講座等を実施し、ウチナーネットワークの継承・発展を促進する取組を実施する。
2. 国内外との多元的な交流の推進
 - ①万国津梁会議費 20百万円(18百万円)
 - ・沖縄21世紀ビジョンの将来像の実現に向け、各施策を進めるため設置する万国津梁会議を開催する。
 - ②国際交流・協力推進事業費【拡】 21百万円 (19百万円)
 - ・(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団が行う国際交流・協力事業を補助し、外国人向けの生活相談等窓口機能を拡充する。
 - ③ウチナーネットワーク次世代継承キャラバン事業費【新】 62百万円
 - ・「第7回世界のウチナンチュ大会」開催後における、県三役による海外キャラバン。
 - ④おきなわ国際協力人材育成事業 28百万円 (25百万円)
 - ・県内高校生を開発途上国のODA現場視察や出前講座を実施し、国際的な視野を持った人材を育成する。

土木建築部 令和5年度当初予算(案) 1,041.2億円

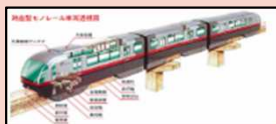
(令和4年度当初予算額 968.5億円 対前年度72.7億円増、7.5%増) 企業会計含
(ハード交付金事業 213億円 対前年度8.6億円増、4.2%増) ※事業費ベース



1 産業インフラの整備

【沖縄都市モノレール輸送力増強事業 44.2億円】

車両3両化及び車両基地の整備



【地域連携道路事業費 42億円】

南風原知念線(南部東道路)及び幸地インター線の整備

【社総金(道路) 24億円 8路線】

那覇北中城線(幸地～翁長)、浦添西原線(翁長～嘉手苅) 県道26号線(登川工区)の整備【新】



【ハード交付金(街路) 17億円 26箇所】

真地久茂地線、城間前田線等

【ハード交付金(道路) 14億円 27路線】

石垣空港線、名護本部線等



【北部振興事業(道路) 4.8億円】

国道449号(本部大橋)

【港湾整備事業 29億円】

重要港湾等の整備(水納港、中城湾港等)



【社総金(港湾) 11億円 6箇所】

前泊港、南大東港西地区等

【ハード交付金(港湾) 5億円 6箇所】

白浜港、中城湾港(泡瀬地区)等

2 安全・安心の確保

【道路メンテナンス事業 12億円】老朽化対策

【緊急自然災害防止対策事業14.8億円】道路防災の実施

【無電柱化推進事業 8.8億円】無電柱化の推進

【交通安全対策事業(通学路緊急対策) 6.2億円【新】】

通学路合同点検箇所 24箇所の整備

【社総金(河川) 16.6億円】浸水被害の軽減を実施

【ハード交付金(河川) 7.1億円】

【砂防関係事業 14.7億円】

砂防・地すべり、急傾斜地崩壊対策施設の整備



【海岸整備事業 8.6億円】

海岸保全施設の整備



【社総金(公園) 21億円】

県総、首里城公園、浦添大公園等の改修

【ハード交付金(公園) 2億円】

名護中央公園、奥武山公園、海軍塚公園等の改修



【土地区画整理事業 12億円】

【社総金(住宅) 21億円】

南風原第二団地等の建替、外壁およびEV改修工事

【ハード交付金(住宅) 17億円】

平良北団地等の建替、外壁およびEV改修工事



3 離島・過疎地域振興

【離島空港整備事業 32億円】

宮古空港(RESA整備、照明LED化)

久米島空港(RESA整備、照明LED化、

旅客ターミナル耐震化【新】)

与那国空港(旅客ターミナル耐震化【新】)

南・北大東空港(RESA整備、滑走路等改良、照明LED化)

多良間空港(RESA整備)、他6空港



【離島港湾整備事業 21億円】水納港等

【社総金(港湾) 11億円 6箇所】

前泊港、南大東港西地区等



【ハード交付金(道路) 10億円 14路線】

石垣空港線等の整備

【ハード交付金(街路) 1.2億円 6路線】

伊差川線、マクラム通り線等の整備

【北部振興事業(道路) 4.8億円】

国道449号(本部大橋)

【公営住宅整備事業(県) 22億円】

新川団地4期、平良南2期・

平良北団地1期の実施



【社総金(公園) 4.3億円】

宮古広域公園の整備

【ハード交付金(公園) 0.3億円】

バナナ公園の改修



★危険箇所の点検・修繕⇒2. 4億円 本部港等の事故を踏まえて土木建築部関連の施設・工作物の危険箇所の点検・修繕の実施に優先配分 27

土木建築部 令和5年度当初予算(案)1,041.2億円 (分野ごと)

※事業費ベース、人件費除く、治水及び海岸以外は、県単及び管理費含む

【1. 道路 223.5億円】34.6億増

- ・南風原知念線（南部東道路）他39箇所
- ・真地久茂地線（街路）他25箇所

(R5トピック)

交通安全対策事業（通学路緊急対策）が新規事業化

歩道・防護柵の整備



対策前



対策後

【2. 治水 31.7億円】6億増

- ・国場川他4河川改修工事及び情報基盤等の整備
- ・当間地区等（地すべり対策工事）
- ・世富慶地区等（急傾斜地崩壊対策工事）

(R5トピック)

防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策で推進



【3. 空港 32億円】8億増

- ・宮古空港（照明LED化等）
- ・南大東空港（滑走路等改良等）
- ・北大東空港（滑走路等改良等）
- ・多良間空港（RESA整備）他8空港

(R5トピック)

空港ターミナルビル耐震化（久米島、与那国空港）が新規事業化



【4. 住宅 90.6億円】0.6億増

- ・平良北団地ほか（建替）
- ・比屋根団地ほか（外壁改修）

(R5トピック)

平良北・高原団地の建替が完了し、入居予定



【5. 公園 79.7億円】19.4億増

- ・国営公園(首里城、水族館)の管理運営
- ・中城公園（駐車場整備）
- ・首里城公園（消火施設改修）
- ・平和祈念公園（広場整備）
- ・宮古広域公園（用地補償）
- ・首里城復興関連事業の推進



(R5トピック)

県総合運動公園

- ・浦添大公園の大型遊具改修予定

【6. 海岸 8.6億円】3.1億増

- ・伊佐海岸（護岸改修）
- ・水釜海岸（護岸改修）
- ・川平海岸（護岸改修）
- 他11箇所

(R5トピック)

伊佐海岸（宜野湾市）等を海岸メンテナンス事業（個別補助）として新規事業化



【7. 港湾 38億円】2億増

- ・前泊港（防波堤改修）
- ・南大東港（西地区）（岸壁整備）

(R5トピック)

中城湾港（新港地区）海邦橋橋梁の耐震化完了



【8. 下水道 70.8億円】▲1.6億

- ・那覇-宜野湾浄化センター改築更新
- ・汚水管渠整備など

(R5トピック)

宜野湾浄化センターにおいて、3系4/4最初沈殿池、反応タンク、最終沈殿池の築造に着手



教育委員会 予算施策体系図

単位:百万円

※括弧内の金額は令和4年度予算額

令和4年度当初予算額	令和5年度当初予算(案)	増減額	増減率
169,713	170,506	793	+0.5%

1. 学校教育の充実



- ①スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等配置事業 276 (276)
教育相談体制の強化を図るため、心理や福祉に関して専門的な知識を有する人材や家庭環境等の改善を図るため関係機関と連携して支援するための人材を配置する。
- ②キャリア・ビルドアップ事業 304 (290)
キャリア教育の充実を図り、進路決定率の向上を図ることを目的に、生徒の早期進路決定を促進するための支援を実施する。
- ③中部地区への特別支援学校の新設 86 (18)
中部地区の特別支援学校の過密化解消のため、新たな特別支援学校の基本設計を実施する。
- ④公立学校教職員メンタルヘルス対策に関する調査研究事業 20【新規】
教員の精神疾患による病気休職の原因分析を行うとともに、メンタルヘルス対策のモデル事業の実施及び効果検証を行う。
- ⑤学校給食費支援事業 5【新規】
学校給食費の支援のあり方について課題を整理するため、保護者等へ調査等を実施する。

2. 子どもの貧困対策の推進



- ①バス通学費等支援事業 456 (435)
安心して学業に励むことができる環境を整備するため、現行の低所得世帯向けバス・モルール通学費無償化に加え、遠距離からの通学等で通学費の負担が大きい中所得世帯の生徒を支援する。
- ②高等学校等奨学のための給付金事業 1,389 (1,399)
高校生等がいる低所得世帯を対象に給付金を支給することにより、授業料以外の教育費の負担軽減を図り、教育の機会均等に寄与する。

3. 国際社会・情報社会等への対応



- ①国際性に富む人材育成事業 129 (76)
国際社会で活躍し、沖縄県の振興・発展を担う人材を育成するため、高校生を海外へ派遣する。
- ②ICT推進関連事業 843 (640)
生徒の端末購入費用の支援、教員用・生徒用ICT機器及び回線の整備、それらICT機器の利活用を促進するためのICT支援員の配置などICTを活用した快適な学習環境を整える。

4. 文化の継承・発展



- ①首里城復興事業 90 (152)
史跡「首里城跡」内の城郭や通用門などを保全し、良好な景観を形成・維持することで、琉球の歴史・文化への関心と首里城復興の気運向上を図る。
- ②高校生伝統芸能分野海外就業体験事業 18 (18)
郷土芸能に取り組んでいる高校生をハワイに派遣し、実演家として、郷土芸能を観光資源として活用できる人材育成に取り組む。

5. 生涯学習・社会教育の充実、青少年の健全育成



- ①学校・家庭・地域の連携協力推進事業 73 (73)
地域住民や外部人材等の協力を得て、地域学校協働活動や放課後子ども教室等の取組を通じて、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る。
- ②玉城青少年の家改築事業 283 (820)
安全でより充実した社会教育活動を行う場を提供するため、老朽化した「玉城青少年の家」の改築を実施する。

公安委員会 令和5年度当初予算の概要



「安全・安心の島 沖縄」の実現

警察費 37,772百万円 (36,450百万円)

※ () は令和4年度当初予算

1 県民の期待と信頼に応える警察基盤の充実強化 32,871百万円 (31,144百万円)

- 治安維持の拠点である警察施設（警察署、交番、離島駐在所等）の整備 2,066百万円 (559百万円)
- 警察行政のデジタル化に向けた取組 263百万円 (175百万円)
- あらゆる警察事象に対応するための警察航空機・船舶の運用維持管理 430百万円 (375百万円)



新・宜野湾警察署完成イメージ

2 生活の安全を脅かす犯罪対策の推進 419百万円 (571百万円)

- 110番通報システム等の初動警察活動における事案対処能力の強化 360百万円 (454百万円)
- サイバー空間の脅威へ対処するための基盤整備 28百万円 (25百万円)
- 精強な地域警察の構築及び水難事故防止対策の強化 8百万円 (11百万円)

3 良好な治安確保のための犯罪捜査力の強化及び組織犯罪総合対策の推進 271百万円(345百万円)

- 検挙力の強化、犯罪捜査のための基盤整備 92百万円 (113百万円)
- 組織犯罪対策、薬物・銃器犯罪対策の推進 5百万円 (4百万円)
- 客観証拠を重視した科学捜査の推進 34百万円 (53百万円)

4 安全かつ快適な交通の確保 2,356百万 (2,599百万円)

- 適正な運転免許行政の推進 780百万円 (926百万円)
- 交通環境（信号機、道路標識、道路標示等）の整備 986百万円 (1,041百万円)
- 飲酒運転根絶対策、交通事故抑止の交通指導取締りの推進 108百万円 (137百万円)



5 テロ等の未然防止及び緊急事態に即応する諸対策の推進 1,856百万円 (1,791百万円)

- 国境離島における不法事案等対策 1,815百万円 (1,675百万円)
- バスケットボールワールドカップ開催に伴う警護警備対策 28百万円 (新規)



令和5年度
病院事業会計予算 (= I + II)
814.0億円
(前年度比+75.0億円)

病院事業局 令和5年度当初予算案の概要

I 収益的収支予算

病院事業費用 725.9億円 (前年度比+51.5億円)

II 資本的収支予算

資本的支出 88.2億円 (前年度比+23.4億円)

1. 基本方針

- (1) 持続的な経営の健全化
- (2) 経営改善に向けた予算原案の作成
- (3) 効率的な企業経営の実現

2. 令和3年度決算

○病院事業会計は、3年連続で経常収支が黒字

- ・経常収支：+74.9億円
- ・純損益：+64.9億円
- ・医業収支：△117.2億円
- ・累積欠損金：2.3億円



3. 課題

- (1) コロナ禍からの社会経済活動の回復を見据えた地域医療の提供と、救急医療、小児・周産期医療、離島・へき地医療、精神医療等の政策医療の提供の両立
- (2) 新型コロナウイルスへの対応に伴い減少した医業収益の回復
- (3) 医師、看護師等の医療人材の安定的な確保
- (4) 施設・設備の整備や、通常診療の再開に伴う医療材料費増への対応

4. 課題への対応

- (1) 地域医療提供体制を確保しつつ、ウィズコロナに向けた新たな段階への制度移行に柔軟に対応
- (2) 地域医療機関との連携強化による新規の入院患者や手術患者の紹介及び転院・退院調整
- (3) 医師のキャリアパスを見据えた人材育成、看護師の合同就職説明会等への参加や広告媒体等を活用した職員募集による人材確保
- (4) 施設・設備（ハイブリッド手術室、電子カルテシステム等）の新設・更新、医療材料の共同（一括）購入



**県民への安定的な医療提供体制の確保
及び持続的な経営の健全化**



企業局 令和5年度建設改良事業の概要

事業目的

- ・今後の水需要への対応及び水質の安全性を確保するための水道施設の整備
- ・災害に強い水道施設の構築に向けた耐震化等の減災対策の実施
- ・本島周辺離島8村への水道広域化に向けた水道施設の整備

事業内容

<計画全体>

- ・事業期間:平成23年度～令和13年度
- ・事業費:3,027億円(うち国費:2,395億円)
- ・本島事業
水源開発施設の整備
水道用水供給施設の整備
- ・離島事業
粟国村、渡名喜村、座間味村、渡嘉敷村、南大東村、北大東村、伊平屋村、伊是名村における水道広域化施設の整備

<R5年度>

- ・本島事業
北谷浄水場、石川～上間送水管等
- ・離島事業
渡嘉敷村[R5年度供給開始予定]、
渡名喜村[R6年度供給開始予定]、
座間味村[R7年度供給開始予定]等
(座間味地区)

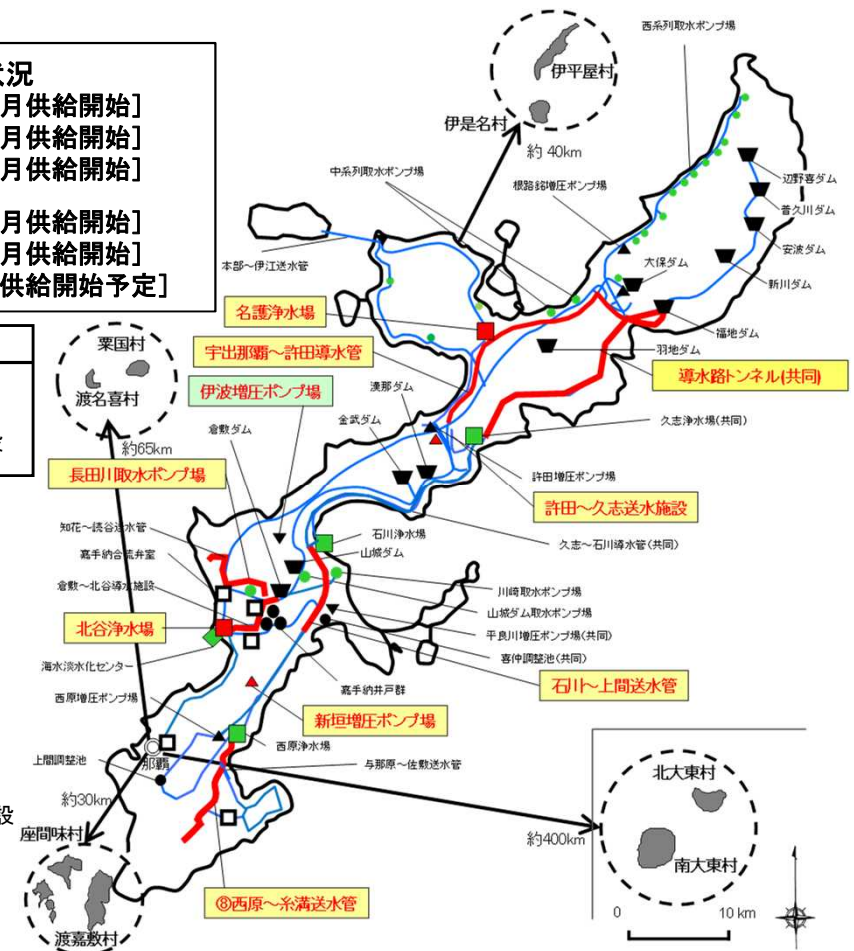
事業箇所

水道広域化の実施状況

- ①粟国村 [H30年3月供給開始]
- ②北大東村 [R2年3月供給開始]
- ③座間味村 [R3年3月供給開始]
(阿嘉・慶留間地区)
- ④伊是名村 [R4年8月供給開始]
- ⑤南大東村 [R5年2月供給開始]
- ⑥伊平屋村 [R5年度供給開始予定]

凡 例	
	水源開発施設
	水道用水供給施設

- ▼ ダム
- 浄水場
- 浄水場(整備中)
- ▲ ポンプ
- ▼ 調整池
- 主な管路
- 管路(整備中)
- ◆ 海水淡水化施設
- 西系・中系列取水施設
- 取水ポンプ場
- 井戸群
- その他施設



水道事業建設改良事業費6,872,359千円

・うち国庫補助事業費5,889,054千円
(1,936,321千円)

・うち県単独事業費983,305千円
(248,785千円)

※()内数は広域化関連費用

工業用水道事業改良事業費17,549千円

・うち国庫補助事業費1,346千円
・うち県単独事業費16,203千円

6 安全な水とトイレを世界中に



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



13 気候変動に具体的な対策を

